



令和8年度あま市平和体験学習



8月3日(月)・4日(火)の2日間、市内の中学校の代表10人が平和推進事業の先進地である広島県広島市を訪れ、広島平和記念資料館・袋町小学校平和資料館見学、各中学校の生徒が平和を祈念して折った千羽鶴の献納、被爆体験講話などを通じて戦争の悲惨さや平和の尊さを学びました。

終戦から81年の歳月が経ち、悲惨な戦争の記憶が次第に薄れつつある現在、戦争の悲惨さや尊さを学び次世代へ継承していくために私たちは何ができるのでしょうか。

甚目寺南中学校3年 いしはら だいち 石原 大地

「被爆から十年経っても草も生えない更地だった。」当時三歳で被爆の方が仰っていました。

この学習で一番記憶に残っているのは「被爆のその後」です。教科書には被爆した直後のことしか書かれていないことがほとんどで、病院に行くお金がない中、放射線の治療に励む人々、臨時の看護施設の壁に書き残された搜索願いや伝言の数々は広島に行って知れた事です。

この小さいけど重大な出来事をこれから私たちが何世代にも渡って語り、平和があたりまえになることが大切だと実感しました。

七宝中学校3年 あかさか れいな 赤坂 玲奈

「見たくない、目を背けたい」資料館で当時の資料を見ているとき、そう感じました。広島に落ちた、たった一つの原子爆弾は、大勢の人の「当たり前の日常」を壊すほどの核兵器でした。今日もどこかで、戦争が起きている。その事実を変えないといけません。

いつかは来る、被爆者のいない世界で、私たちは「後世に伝える義務」があります。毎朝来る、八時十五分。その時間に登校できているのは、平和だと実感しました。今後、同じ悲劇が起きないように、私たちは行動しないといけません。

問 人事秘書課 ☎444・1713